外の世界へつづく道

町所蔵写真

いまでこそ升沢の地は、吉岡から延びた一本道が山襞の奥でゆきどまっている。だがかつて、ここからいくつもの道が外の世界へとつづいていた。

升沢に伊達藩の関所「御番所」が置かれたのも、ここが出羽国へ通じる峠道の街道だったからであり、「御番所」は人や物の出入りを監視する役目を担っていた。ただこの街道はやがて廃れ、明治の初めに下原本木家の者が、自費を投じて村山観音寺村までの廃道を再び開いたが、現在は登山道のみが山へと分け入っている。昭和初め生まれの男たちの若いころは、村山銀山まで山仕事の刃物を買いに山越えして歩いたのだという。

いま自衛隊王城寺原演習場内となっている荒川沿いにも、欠入集落を中継地として色麻へと通じる道があった。風じ峠越えの吉田・吉岡への道がぬかるむ悪路だったのにくらべて、こちらの道はなだらかでよい道だった。升沢の人たちはこの道を歩いて炭を欠入まで背負いおろし、この道を歩いて米を欠入から背負いあげた。馬車は色麻から欠入または通うことができたので、欠入は米と炭とを交換する中継地でもあった。升沢の各集落は、歴史的には加美郡色麻と、荒川と荒川沿いのこの道を介した通商や通婚によって結びついてきた。黒川郡吉岡との強い結びつきは、戦後自衛隊王城寺原演習場の拡張により、色麻への道が閉ざされてからのものだという。

＊「黒川郡誌」から

升沢集落、師走の雪景色。升沢集落をつらぬいて船形山登山口までのぼる本道。その両側に村の草分けである旧家のイグネ（屋敷林）の古木が見える。

升沢へ続くナラ林 夏

升沢へ続くナラ林 秋

升沢へ続くナラ林 春